

まちひとしごと新聞

第5号

発行

三島信用金庫

駿東郡長泉町下土狩96-3
055-973-5730

制作

県立沼津東高等学校新聞部
県立菰山高等学校写真報道探求部
日本大学三島高等学校新聞部
県立熱海高等学校報道部

協力

静岡県東部地域局

フジ虎ノ門整形外科病院 地域に寄り添って



幅広い分野で
地域に貢献

今回取材したフジ虎ノ門整形外科病院は、整形外科を中心とした外科系・リハビリテーションの高度専門病院だ。また虎ノ門グループとしても障がい者医療やスポーツクラブ、保育園など幅広い分野において地域に貢献している。

フジ虎ノ門整形外科病院の魅力は、充実した施設と親しみやすさだ。病院内には喫茶スペースや学童クラブなどがあり、患者さんだけでなく、地域のみなさんにも開放感がある。土田さんは「近年、発達障がいをもつ子供が増える一方で、障がい者が生きにくい世の中になっていくと感じます。障がい者医療は小さな分野ですが、たとえ赤字でもやらなくてはいけない大切な分野です」と語る。

すべての
人々のために

なぜ御殿場で開業したのか、フジ虎ノ門グループの土田博和会長に話を聞いた。土田さんは石川県出身で、幼少期に静岡県へ引っ越し、静岡で育ったという。富士山が大好きで、大自然の下で仕事をしたいという思いから御殿場で開業したそうだ。

様々な人と
出会う



▲話をする土田博和会長

働く上での信念として「昔、土木作業員として働いていたときにどんな人でも差別せず一人の人間として見ることの大切さを学びました。苦しい環境で生活したことがどんな状況でも人を助ける原動力になっていると思います」と語った。

また、土田さんは映画の監督や政治家としてワイドに活動している。様々な活動をする中で、色々な人と出会うことができ、そのとき出会った人に助けられたことが何度もあった。



▲明るい雰囲気にあふれている

土井製菓株式会社 顧客に喜んでもらうために

高橋生に伝えたいことについて土田さんは「勉強だけでなく、スポーツなど色々なことを経験し、多くの人と出会ってほしいです。幼いころの友達は今将来困ったときに必ず助けしてくれるはずです」と話した。

東部で自慢できる
お菓子を

皆さんは、全国菓子大博覧会内閣総理大臣賞を受賞した「富士の白雪カスタード」や名誉総裁賞を受賞した「土井の田舎草もち」を一度は見たことがあるだろう。私たちはこれらを製造する土井製菓株式会社の代表取締役社長、土井隆司さんに会社設立について話を聞いた。

土井さんは「この会社は、羊かんの下請け会社から始まりました。私の幼少期には、母が私を背負いながら羊かんを煮たり、父が配達を聞いた。」



▲土井隆司社長

や営業をしていたようです。その後父が会社を設立し、苦勞の末にヒット商品を作りだし、会社を拡大することができました」と話した。土井製菓株式会社は現在、大手交通・鉄道会社などが経営しているホテルやテーマパークの売店、さらにサイブリエリアなどに菓子を納入している。



経営上の苦難

実は、土井製菓株式会社は創業当初に経営難にさいなまれたという。「私が子供の頃は父母共に働いており、借金も抱えていました。父は一日中外へ営業・配達へ行き、母は家事をお菓子を入れる箱を折っていたことをよく覚えていますが」と懐かしそうに語ってくれた。

しかし、現在ではまた別の点で苦勞しているという。「ここ最近社会全体において食品衛生に対しての意識が大変厳しくなり、以前よりも社会が敏感に反応するようになってきた。」

「何事も一生懸命やっていたら、いつか必ずあなたが応援してくれる人が現れます。幼いころからなりたいと思っていた、そういう仕事に就けるかはわかりませんが、肩ひじ張らずに少し物事を気楽に考えて毎日目の前のことを頑張る。そうすれば誰でもきつと報われると思います」と話した。



▲白衣を試着した新聞部員

いかに出会う

最後に、私たち高校生へのメッセージを聞くと、人との出会いを大切にしたいという答えが返ってきた。

「熱心に取り組むことが大切であることを改めて確認できた。」

編集後記

今回、取材させていただいたフジ虎ノ門整形外科病院では、過去の経験から、どんな人とも対等に接することの大切さを信念として働いていました。土井製菓株式会社では、長い間の苦勞を乗り越えて、ヒット商品を開発しています。地域に存在する素晴らしい企業は過去の経験を今に生かして成功を収めています。

このような地域企業の姿は今後私たちの世代に必要とされる心構えを示していると思います。また、地域企業の魅力はそれぞれの地域企業が持つ歴史から生まれるものだと感じました。今回の取材に協力してくださった皆さんに深く感謝いたします。

【担当】
沼津東高校新聞部